

れの利用を考えている) 将来の分布型を予想し, 更に予報期間の延長も可能と考えている. いずれ別の機会に調査を進めたい.

終りに内海技術部長, 和田予報課長ならびに御助言を戴いた草野予報官に謝意を表します. (1958, 2, 19)

参 考 文 献

- 1) Martin, 1956: Forecasting Rules and Techniques used in Tokyo Weather Central. (大阪から翻訳が出ている)
- 2) 草野和夫, 1957: 仙台における数値予報の応用 気象研究ノート, **8**, 81-90.
- 3) 内田正昭, 1950: 台風進路の週間予報. 東京管区気象研究会誌, **1**, 31-38.
- 4) 松倉秀夫, 1950: 台風進路の平均気象的考察. 研究時報, **2**, (特別号) 51-54.
- 5) 檜山国雄, 1951: 台風の一ヶ月予想の一方方法. 研究時報, **3**, 303-304.
- 6) 高橋浩一郎, 1951: 台風の移動の予報について 予報研究ノート, **2**, 8-24.
- 7) 田中文治, 1956: 台風23号の検討. 昭和30年度予報検討会検討資料(中央気象台予報課) 96-104.
- 8) 昭和32年度 (1957) 防災予報業務打合せ資料. (福岡管区気象台), p. 3 の試案による.
- 9) 笠原, 増田, 1956: 台風論. 気象学講座, **11**, 89-90.
- 10) 神戸海洋気象台, 1957: 台風諸統計附台風概論 海洋時報, **8**, 64-66.

【雲 鏡】

研究発表会

学会の発表会で, もし一連の天気図が示され, 低気圧の動きを次々に追跡して, これを説明したとすると, それはおそらく退屈きわまることであり, 聴衆は眠気をもよおすだけであろう. そしてそのような発表はおそらく研究というには値しないことであろう.

ところがこの追跡が天気図上のパターンでなくて, レーダーでとらえたレインバンドになると, 単なる現象記述であっても, ちゃんとした研究として学会で通用し, 本心かどうかはしらぬが, 大家の質問なども出るのだから不思議な話だ.

もっとも天気図上のパターンだって, 今から 100年位前だったら, それは立派な研究として通用したかもしれないので, そうだとするとレーダーの受信像の追跡だって, 研究が始まったばかりなのだから現在は立派な研究として通用するのだと考える人もあるかもしれない. 地球物理の研究では大部分が, 理論よりも現象の発見が先行していることはチャップマン教授などのつとに指摘するところであって, だから新しい現象を正確に記述することはそれだけでも意味のあることかもしれぬ. だが発表にはもっと工夫があってもよいのではないだろうか.

本当の学問であるかどうかということ, 対象にあるというよりは, むしろ対象のとり上げ方にあるのではないか. 単なる現象記述であってもそこにはオリジナルな

点があって然るべきだ. 一体何を発見したというのか. 現場のほとんど大部分の人が知っていることを, 唯体裁よくまとめ, わかりやすく発表することを啓蒙という. 発表会に啓蒙の意味もあることはみとめるが, これでブライオリチャーが主張されてはたまったものではない. (N)

“ほんとかね”

予報業務体制について多年研究していたワイセッカー博士はつぎの勧告案を気象長官に提出するもよう.

気象庁天気予報はその精度と予算にかんがみ, これを中止し, ほぼ同精度の気象協会または放送局の予報を採用すること. ただし, 同協会または放送局にはこれに必要な協力を惜しまないこと. (NAP)

“これは失礼”

予報官の妻, 隣の奥さんに向かって「お宅のお子さんは, 理科がお好きで, 宅にまいりますと, 雲やお天気の予報をいろいろお聞きになって勉強なさいますよ.」

隣の奥さん「あら, そうですか, 馬鹿なまねはしないように申しませう.」 (NAP)

“世も末”

気象庁職員「この開庁式はいつですか?」

雀狂「へえー, 官庁でもそんなことをするようになりましたかねえー」 (S. A.)